



「琴線に触れる」は「怒りを買う」??

今回は、文化庁が毎年発表している「国語に関する世論調査」について、特に高校生が注意すべき点をまとめました。
平成27年度で大きく注目されたのは、「ら抜き」と「さ入れ」の調査でした。



見られる／見れる
来られる／来れる
食べられない／食べれない

(16～18歳の数値が特に高かったもの)

左の他、「ら抜き」では「考えられない／考えれない」「出られる／出れる」、「さ入れ」では「休ませて／休まさせて」「帰らせて／帰らさせて」「読ませて／読まさせて」などが挙げられています。

言葉は変化するものなので、将来は、「ら抜き」と「さ入れ」がより多く使われる可能性もありますが、現状では、入試の解答や小論文で使うと減点される可能性があるため、特にこういった言葉には注意しておきたいところです。

「国語に関する世論調査」では、慣用句の調査も行われています。ここでは、過去3年間で16歳から18歳までの誤用が多かったものをまとめてみました。

	誤った意味	本来の意味
琴線に触れる	怒りを買ってしまうこと	感動や共鳴を与えること
おもむろに	不意に	ゆっくりと
小春日和	春先の頃の穏やかで暖かな天気	初冬の頃の穏やかで暖かな天気
世間ずれ	世の中の考えから外れている	世間を渡ってずる賢くなっている
他山の石	他人の良い言行が自分の行いの手本となる	他人の誤った言行も自分の行いの参考となる

これらは高校生に限らず多くの年代において、辞書等の意味とは違った意味として使っている割合が多い言葉ですが、意味が曖昧にしかわからないなと思ったときは、基本的な学習に立ち戻り、辞書を引いてみる習慣をつけること、とにかく調べてみる習慣をつけることが重要です。



英文校閲者のひとりごと④

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。

My fascination with old film cameras



For a long time I couldn't understand the fascination middle-aged men seemed to have for old film cameras. My friend would often invite me to dinner after looking through the used camera shops in Nakano. Why were there only old guys there? One day I bought an old camera from the junk section for 500 yen. It was a Konica C35 EF and it needed a bit of cleaning. I bought some 35mm film and put it into the camera, which was manufactured in 1975. I took a few cityscape photos during my walks around Tokyo. I was pleasantly surprised by the results. There was a nostalgic quality to the photos that was quite different from a digital image.



東京の善福寺公園で撮影（使用カメラ：コニカ C35EF）

After a while I realized I was living in the camera mecca of the world. People from many different countries come to Tokyo to find these old cameras that were made by Japan's famous camera companies during the Showa Era. One can sense the passion of the Japanese designers who were taking on the likes of Leica. And in many respects, they surpassed the high standards set by that iconic German camera maker. I suppose it is good to know that after 40 or even 50 years, a camera can still work perfectly. Like me, they have not outlived their usefulness.

日本語訳 一昔前のフィルム式カメラに魅せられて

一昔前のフィルム式カメラに中年男性がなぜあれほど入れ込んでいたりするのか、私は長い間、理解できませんでした。以前、よく友人に夕飯に誘われたときのことですが、食事をするのはたいてい中野区にあるいくつかの中古カメラ店を見て回ってからのことでした。それにしても、どうして店にいる客は年配の男たちだけなのだろう、というのが私の正直な感想でした。ある日、私はジャンク品コーナーで500円の古いカメラを買ってみました。それはコニカ C35EF というもので、ちょっとクリーニングが必要でした。私は35mmのフィルムを買い、1975年に製造されたそのカメラに入れました。そして東京であちこち歩き回っているときに、街の風景を何枚かの写真に収めたのです。その結果はうれしい驚きでした。その写真にはノスタルジー（郷愁）を感じさせる雰囲気があり、それはデジタル画像とはまったく異なるものでした。

しばらくして、私は自分が、世界中のカメラ愛好家のあこがれの地に暮らしていることに気づきました。さまざまな国の人たちが、昭和の時代に日本の有名なカメラメーカーが製造した古いカメラを求めて東京にやって来るのです。（そうしたカメラからは）ライカのようなカメラに挑戦していた日本の技術者の情熱を感じることができます。そして、彼らは多くの点で、高級カメラの象徴であるそのドイツのカメラメーカーが設定した高い技術水準を超えたのです。40年、さらには50年たっても、まったく問題なくカメラが使えるとわかっているのは、とてもよいことではないでしょうか。私と同じく、年月を経ても利用価値がなくなることはないのです。

